

## ペレストロイカの結果

### 海 道 進

#### 序

- I 1985～1990年の生産の動態
- II 1985～1990年の消費資料の生産
- III 1991～1993年の生産指標

#### 結

#### 序

1985年に成立したゴルバチョフ政権のもとで始まったペレストロイカ（перестройка）は、旧ソ連、ロシアの経済にどのような結果をもたらしたのであろうか。いま物質的生産の局面に重点をおいて考察することにしよう。まず1985～1990年における主要生産指標の動態をみることにする。（第1表）参考までに1980年の指標を付加しておく。それによって1980～1985年の上昇率と1985～1990年のそれとの対比が可能となる。その結果は第2表に示される。1985～1990年の動態の特徴がより鮮明化されることになる。そこでは、ペレストロイカが必ずしも順

第1表 主要生産指標（10億ルーブル）

	1980	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1 国民総生産	619	777	799	825	875	943	1000
2 社会総生産	1078.5	1383.6	1425.8	1464.5	1525.0	1593.5	1631.6
3 生産国民所得	462.5	578.5	587.4	599.6	630.8	673.7	700.6
4 利用国民所得	454.1	568.7	576.0	585.8	619.1	666.0	704.3
5 生産的基本ファンド	1150.3	1569.3	1650.9	1730.8	1809.4	1901.5	1979.8
6 工業生産	679	811	846	879	913	928	918
7 国民消費商品生産 <sup>(1)</sup>	333.4	374.2	363.9	381.4	405.1	435.6	462.3
内) 非食料品	153.7	187.3	194.4	204.5	220.3	237.3	258.8
食料品	108.3	126.2	132.7	140.4	142.2	146.7	148.0
アルコール飲料	71.4	60.7	36.8	36.5	42.6	51.6	55.5
8 農業生産	187.8	208.6	219.7	218.5	222.2	225.1	218.7
9 基本投資	150.9	179.5	194.4	205.4	218.2	228.5	229.8
10 稼動生産ファンド	148.9	172.6	182.7	195.1	192.5	197.4	193.7

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 5～6.

注：(1) 7は比較小売価格。なお国民総生産，社会総生産，生産国民所得，利用国民所得は，実際の価格，工業の指標は1982年の比較価格，農業生産は1983年の比較価格，基本建設は1984年1月1日の予算価格，国民経済全部門の基本的生産ファンドは，1973年の比較価格を基準にしている。

第2表 1980～1985年と1985～1990年の増大率(%)

	1980～1985	1985～1990	年 平 均	
			1980～1985	1985～1990
国民総生産	125.5	128.7	5.1	5.7
社会総生産	128	118	5.6	3.6
生産国民所得	125	121	5.0	4.2
利用国民所得	125	124	5.0	4.8
生産的基本ファンド	136	126	7.2	5.2
工業生産	119	113	3.9	2.6
国民消費商品生産	112	123.5	2.4	4.7
内)非食料品	112	138	4.4	7.6
食料品	116.5	117	3.3	3.45
アルコール飲料	85	91	-3	-1.8
農業生産	111	105	2.2	1.0
基本投資	119	128	3.8	5.6
稼動生産ファンド	116	112	3.2	2.4

調には進んでいないことが明らかとなる。

## I 1985年～1990年の生産の動態

### 1. 主要指標

1985年から1990年にいたる国民総生産、社会総生産、生産国民所得、利用国民所得（消費と蓄積）、生産的基本ファンド（国民経済全部門）、工業生産、国民消費商品生産（非食料品、食料品、アルコール飲料）、農業生産、基本投資、稼動生産ファンドの動態は、第1表に示されているごとく、アルコール飲料を除きいずれも増大している。しかし、1989～1990年については、工業生産、農業生産、稼動生産ファンドの低下がみられる。そのみならず、国民総生産においても、実際の価格では増大しているが、比較価格との関係においては実質的には減少している。（第14表）1990年代の低下の始まりである。（第17表）

国民総生産、社会総生産、生産国民所得、利用国民所得は、実際の価格であるので、物価上昇の影響をうけて増大している。名目的な数字であるが、それにもかかわらず、1985～1990年の増大率は、1980～1985年のそれよりも国民総生産をのぞき低下している。ペレストロイカによっても、まだ1980～1985年水準には達していない。1980年代前半はブレジネフ時代の停滞期に相当する。1985～1990年の増大率は、停滞期以下の発展テンポである。ペレストロイカの目的とした「社会経済的発展の促進」とはなっていない。

工業生産は比較価格によるものであるが、やはり1985～1990年の年平均増大率は、1980～1985年水準以下である。ただしその中であって、国民消費商品の生産の上昇率は1980～1985年水準のほぼ倍になっている。とくに非食料品部門の生産は急速に発展している。それはペレストロイカの主要な特徴を示す。1980～1985年の年平均発展率 4.4% に対し、1985～1990年の

ペレストロイカの結果

それは7.6%。さらに基本投資の増大率も高い水準にある。1980～1985年の年平均3.8%に対し5.6%である。

ここで、国民総生産 (валовой национальный продукт) と社会総生産 (валовой общественный продукт) <sup>(1)</sup> についてふれておく。前者には、つぎのものが含まれる。(1)最終生産物、(2)生産的・非生産的サービスの市場価格での総価値、(3)外国貿易収支バランスの残高 (黒字あるいは赤字)。その指標には、(1)国民によって消費された商品とサービスの価格、(2)国家の調達・購入価額、(3)基本投資額、(4)外国貿易差額が入る。(4)の貿易収支バランスの残高を含む点で、国内総生産 (валовой внутренний продукт) とことなる。

国民総生産は、生産的方法と分配的方法によって測定される。前者では、物質的財貨とサービスの総産出高より、その中間の消費量を控除して測定される。後者の場合には、物質的生産とサービスに影響を与える全企業、組織、施設、住民の所得である。すなわち、賃金、社会保険への控除額、利潤、コルホーズの純収入、その他の所得 (取引税を含み、補助金は控除) と減価償却額 <sup>(2)</sup> である。

国民総生産は、社会総生産とくらべて、その額と構造において本質的にことなる。額では、物質的支出 (原材料、燃料、エネルギーの価値など) を含まない。他方、非生産的サービスの額を含む。構造では、国民総生産は、基本フォンドの減価償却と間接税を含む。基本フォンド <sup>(3)</sup> の減価償却と非生産的サービスを含む点で、国民所得とことなる。

国民総生産は、国民経済発展の基本指標の一つであって、一国の経済活動全体の最終的結果を示す。それは生産的的局面と非生産的的局面を含み、経済成長の動態の計算に利用される。ソ連では、1988年より経済計算に採用された。ソ連の国民総生産の構造は第3表のごとくである。

第3表 国民総生産の構造 (%) (実際価格による)

	1980	1985	1989
国民総生産	100	100	100
内) 工業	41	36	32
農業	13	17	18
建設	8	8	10
サービス部門	38	39	40
その内			
商業	13	14	12
交通通信	6	6	6
その他の部門	19	19	22

備考: Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 9.

(1) Г. Я. Киперман, Б. С. Сурганов, Популярный экономический словарь, 1993, с. 36~37.

なお1992年のロシア連邦の国民総生産は約14兆ルーブルである。

(2) Политическая экономия. Словарь, 1990, с. 53. Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 684.

(3) Экономическая энциклопедия. Политическая экономия. т. 1, 1972, с. 209.

1989年当時においては、工業部門が国民総生産の32%、農業が18%、建設部門が10%、サービス部門が40%を占める。1980年と比較すると、工業部門の41%、サービス部門の38%の比率が逆転している。工業部門の比率は1985年当時すでにサービス部門に追抜かれていた。しかし、サービス部門内の各部門の構成比率をみると、工業部門はやはり第1位を占める。32%でサービス部門のその他の部門の22%をこえる。

なお国民総生産の利用は第4表に示される。1990年には総蓄積の絶対額が対前年比で低下している。

第4表 国民総生産の利用（実際価格，10億ルーブル）

	1985	1986	1987	1988	1989	1990
国民総生産	777.0	798.5	825.0	875.4	943.0	1000
内：						
住民による物財とサービスの最終の総消費	426.0	436.2	449.3	477.0	513.7	569.0
その内：						
家庭の最終的消費への支出	373.8	381.5	392.8	415.7	450.6	502.0
家庭にサービスする国家機関の最終的消費への支出	52.2	54.7	56.5	61.3	63.1	67.0
総蓄積（基本投資と物財と流動資金の在庫の変動）	248.4	255.5	259.4	283.6	305.0	300.9
集団的需要を満す国家機関とその他の最終的消費への支出	102.6	106.8	116.3	114.8	124.3	130.1

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 9.

社会総生産の指標は、原則として当年度の社会的生産において作り出された物質的富全体の総価値を示す。それは、物質的生産局面の全企業と部門の年間の生産物の総額である。すなわち、物質的生産部門の総生産物の額として決定される。その生産部門には、工業、建設、農業、貨物輸送、通信（特に物質的生産に従事する）、物質的技術的調達、農業生産物の調達、商業、社会的給養（食堂）とその他の生産的活動（金属など廃物の蒐集と調達、映画フィルム製作、出版による書籍の製作、住民による薪の調達など）が入る。

住民一人当たりと全体における量は、社会の経済的発展の水準を示す。その量の増大の主要要因は、(1)社会的労働生産性の増大、(2)物質的生産に従事する勤労者数の増大である。

社会総生産の再生産には、現物形態と価値形態とがある。現実には、その両者は統一されている。現物形態の中に価値が含まれる。この現物形態は、生産手段と消費資料に分れる。1966年のソ連では、62：38の比率であった。生産手段は、再生産過程において原料、材料、燃料、設備、その他として生産的に消費される。消費資料は国民の個人的消費に入る。

社会において生産された物質的富の全体は、価値的には2つの部分に分れる。(1)生産物に移転され消費された生産手段の価値(c)と、(2)新しく労働によって作り出された価値(v+m)とである。前者は補填ファンド(фонд возмещения)であり、後者は消費ファンド(фонд

потребления) と蓄積ファンド (фонд накопления) の国民所得である。補填ファンドは、さらに基本的な生産ファンドの補填の価値と流動生産ファンドの補填の価値とに分れる。<sup>(4)</sup>

社会総生産の動態は、生産増大テンポを示す。その量の増大は、生産規模の拡大、労働生産性の向上、生産の効率と強度の上昇による。物的資源の節約、その経済的支出、基本的生産ファンドの完全な利用、合理的な科学的な労働組織、その物質的刺激、経済管理の改善は、相対的に少ない資源の消耗によって、より多くの最終生産物を生産することを可能にする。それは、社会的総生産における国民所得の部分を増大させる。<sup>(5)</sup>

いまソ連国民経済の部門別の社会総生産をみると、第5表のごとくである。

第5表 国民生産の部門別の社会総生産 (10億ルーブル)

	1980	1985	1986	1987	1988	1989	1990
社会総生産	1078.5	1383.6	1425.8	1464.5	1525.0	1593.5	1631.6
工業	685.5	844.6	862.5	892.3	912.4	943.5	950.0
農業	152.6	219.5	232.6	234.9	259.7	276.7	296.0
建設	103.4	136.3	147.9	155.9	165.5	173.6	169.1
運輸・通信	47.6	66.0	68.8	70.3	73.5	72.7	83.8
商業その他	89.4	117.2	114.0	111.1	113.9	127.0	132.7

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 10. 工業部門の生産高は工業卸売価格による。

1990年は1985年に対しいずれも増大している。全体で18%、その内工業部門が12%、農業が35%、建設部門が24%、運輸・通信が27%、商業その他の部門が13%である。1989年から1990年にかけては、建設部門のみが約3%の低下を示している。

社会総生産の部門別構成においては、工業部門がほぼ60~70%であり、農業が15~18%、建設10%、運輸・通信5%、商業その他は約10%を占める。

## 2. 名目指数と物価

第1表にもとづく各指標の1985年から1990年にいたる増大率は、第6表のごとくである。

1985~1990年の間に、国民総生産は約30%、社会総生産は約20%、生産国民所得は20%以上、

第6表 1985~1990年の増大率 (%)

国民総生産	29	国民消費商品生産	23.5
社会総生産	18	内) 非食料品	38
生産国民所得	21	食料品	17
利用国民所得	24	アルコール飲料	-8.6
生産的基本ファンド	26	農業生産	4.7
工業生産	13	基本投資	28
		稼動生産ファンド	12

(4) Экономическая энциклопедия. Политическая экономия. т. 1, 1972, с. 210.

(5) Л. Я. Киперман, Б. С. Сурганов, Указанная работа, с. 37~38.

利用国民所得は24%増大した。しかもこの指標は、実際の価格によるので、物価上昇の影響が含まれ、名目的指数である。1985～1990年の工業部門の企業卸売価格は7.2%の上昇、とくに軽工業と食品工業では、10.4%と12.5%の増である。1990年の対前年比では重工業で3%、食品工業では9%の上昇である。(第7表)

第7表 工業の企業卸売価格の動態 (1985=100)

	1989	1990	1990年の対前年比
全 工 業	104.1	107.2	103.0
電 力 産 業	103.5	103.5	100.0
燃 料 工 業	100.3	101.3	101.0
鉄 鋼 業	102.9	105.0	102.0
石 油 化 学 工 業	102.2	103.2	101.0
機 械 製 造 業	105.8	109.0	103.0
木 材 加 工 業	105.6	109.0	103.2
建 設 材 料 工 業	101.3	105.4	104.2
軽 工 業	107.2	110.4	103.0
食 品 工 業	103.2	112.5	109.0

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 159.

1990年の農業生産物の調達価格は、1983年水準に対して43%の上昇、その内農産物は63%、畜産物は35%の増である。(第8表) 農業生産物の調達価格の上昇率は、1985年を100としても若干高い。その上昇は、生産原価の上昇による。(第9、第10表) なお、調達価格の相対的低

第8表 農業生産物の国家調達価格の動態 (1983年年平均価格に対するパーセント)

	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
農 業 生 産 物	102	103	104	107	120	128	143
内) 農 産 物	99.5	100.6	105	108	116	125	163
畜 産 物	103	104	104	106	122	129	135

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 160.

第9表 コルホーズにおける農業生産物1tの生産原価 (ルーブル)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1990/1985
穀 物(とうもろこしを除く)	94	91	92	97	96	103	1.1
原 棉	577	580	577	606	682	845	1.5
ひまわりの種	105	106	102	116	122	140	1.3
ジャガイモ	138	122	134	158	143	181	1.3
野 菜	139	141	142	150	151	186	1.3
牛 肉	2527	2435	2545	2541	2669	2997	1.2
豚 肉	2313	2169	2144	2138	2241	2573	1.1
羊 肉	1891	1763	1789	1797	1943	2225	1.2
牛 乳	340	337	324	323	334	367	1.1
鶏 卵 (1000個)	92	86	85	86	94	107	1.2
羊 毛	9584	9326	9406	9291	9772	10510	1.1

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 529 より作成。

ペレストロイカの結果

位性の改善，納入価格の刺激度の増大にもよる。

第10表 ソフホーズにおける農業生産物1 t 当りの生産原価

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1990/1985
穀物(とうもろこしを除く)	113	109	112	120	121	125	1.1
原 棉	655	660	667	659	710	863	1.3
甜 菜	47	47	41	41	42	47	1.0
ひまわりの種	128	129	123	136	139	160	1.25
ジャガイモ	177	162	183	203	194	242	1.4
野 菜	128	129	136	134	138	164	1.3
牛 肉	2922	2775	2903	2875	3011	3390	1.2
豚 肉	1975	1872	1860	1933	2090	2359	1.2
羊 肉	1896	1820	1844	1681	1809	2017	1.1
牛 乳	380	375	360	356	367	402	1.06
鶏 卵 (1000個)	63	62	61	62	67	72	1.1
羊 毛	9836	9526	9806	8967	9507	10053	1.02

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 537 より作成。

なおここで，農産物1 t 当りの実際の調達価格の上昇率は，穀物で1.8倍，ジャガイモ1.6倍，野菜1.5倍（1986～1990年）である。（第11表）その上昇率は他の農産物にくらべても高い。さらにまた自由市場，コルホーズ市場における価格の上昇率も大きい。とくに穀物類，肉類，鶏卵の価格は，1990年に対前年比で30%をこえる。（第12表）

これらの価格の上昇を考慮に入れて，国民経済統計表上において公表された1989年に対する

第11表 農産物1 t 当りの調達価格（ルーブル）

	1986	1987	1988	1989	1990	1990/1986
穀 物	172	173	205	220	313	1.8
甜 菜	56	57	56	58	57	1.01
棉 花	770	781	841	923	1088	1.4
ジャガイモ	180	177	191	210	286	1.6
野 菜	231	242	248	255	347	1.5
家 畜・家 禽	2329	2423	2710	2872	3185	1.4
牛	2526	2631	2966	3120	3422	1.35
牛 乳・乳 製 品	424	429	525	553	555	1.3
鶏 卵 (1000個)	96	97	97	96	103	1.07
羊 毛	9055	9215	10521	11241	10885	1.2

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 161 より作成。

第12表 村落外のコルホーズ市場における農業生産物の価格<sup>(1)</sup>

	1990年 (%)		
	対1980年	対1985年	対1989年
全 商 品	148.5	134.6	121.5
穀 物 類	136.0	127.9	132.1
ジャガイモ	170.7	166.0	116.3
野 菜	122.6	111.6	118.2
果 物	148.3	135.5	118.0
肉 類	118.0	144.7	130.9
牛乳・乳製品	132.0	113.8	109.3
鶏 卵	113.3	122.4	135.8

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 174.

注：(1) 契約価格による消費協同組合への販売を除く。

1990年における国民総生産のデフレート指標は、全体として8.6%である。(第13表) 国民が最終的に消費する物質的財貨とサービスの総計と蓄積総額ではそれぞれ6.9%である。集団的需要を満す国家機関その他の最終的消費に対する支出では、21.5%である。

第13表 1990年における国民総生産のデフレート指標 (1989=100)

国 民 総 生 産	108.6
物財とサービスの住民による最終の総消費	106.9
内) 家庭の最終消費への支出	106.5
家庭にサービスする国家施設の最終消費に対する支出	110.0
総 蓄 積 (基本投資と物的手段と流動資金の在庫の変動)	106.9
集団的需要を満す国家機関の最終的消費に対する支出とその他	121.5

したがって、1990年の国民総生産1兆ルーブルは、8.6%のデフレート指標を適用して換算すると約9,200億ルーブルとなり、1989年に対する1990年の比率は97%となる。対前年比マイナス3%である。それは、後出の第14表における135 (1990) : 138 (1989) の比率97%と一致する。第17表では、97.7%となっている。

### 3. 工業生産

第6表に示されているように、1985~1990年の工業生産は、実際価格ではなく、比較価格で13%の増大である。その中で国民消費商品生産は約24%、さらにその中でも非食料品は38%の増で、急速な上昇率を示している。ここにペレストロイカの特徴的な結果が示されている。消費資料、生活必需品の生産の重視がそれである。

従来も、生活必需品の生産の拡大は強調されていたのではあるが、ペレストロイカの時代に入り、とくにそれは強く主張されるようになった。いうまでもなく、国民の生活水準の向上のためである。この向上は、社会主義の基本的な経済法則の主要内容を構成するものであった。



国民のたえまない需要の増大、その欲求の充足を生産技術水準の高度化、労働生産性の向上、生産効率の上昇などにもとづいて実現することは、社会主義経済の基本的な合法則性、客観的な法則となっていたものである。<sup>(6)</sup>そこでは、資本主義経済に特有の絶対的、相対的貧困化の法則は存在しなかった。すなわち、失業は消滅していた。かつてのソ連では、それは第1次5カ年計画<sup>(7)</sup>中（1928～1932年）に実現されたのである。

他方、当時アメリカでは1929～1933年恐慌期に相当し、失業者は1,500万人、その家族を含めて3,500万人と推測されていた。ここで、ソ連は、社会主義計画経済の優位性を示した。労働能力のある人々の完全雇用を保証したからである。失業の消滅はまたドイツ民主共和国（DDR）においても実証されたところである。1960年以来完全雇用を実現し、むしろ労働力不足でもあった。現在のドイツでは、旧東ドイツ地区の女子労働者の半数以上が失業者となっ<sup>(8)</sup>ている。発達した資本主義国が、失業消滅の点では若い社会主義国以下であった。

#### 4. 各国別の国民総生産の変化

いま各国別の国民総生産の動態をみると、ソ連は日本について1990年に35%の上昇率を示している。（1980=100）日本は52%の増。ソ連はアメリカの31%よりも早いテンポで発展しており、イギリス、イタリアの26%、フランスの25%、ドイツの24%を凌駕している。（第14表）

ポーランド、ハンガリーが1990年に1985年水準以下になっているのに対し、中国は234%と大きかった高度成長をとげている。社会主義経済の市場経済原理にもとづく体制転換に対する優位性が示されている。ソ連は、1990年水準が1989年水準以下となり、市場経済導入が成果を生んでいない。むしろ、その後の状況はますます悪化している。

さらに各国別の工業生産の動態についてみると、1980～1990年の工業生産の発展テンポにおいて、ソ連は先進資本主義国のイギリス、イタリア、フランス、ドイツを超越している。1990年には工業生産は1989年よりも後退し、1988年水準に戻ったにもかかわらず。（第15表）

(6) この法則にもとづいて、5カ年計画が決定される。5カ年計画の主要な課題は、「国民の物質的・文化的な生活水準の著しい上昇であって、その基礎には社会主義的生産の高度の発展テンポとその効率の上昇、科学的・技術的進歩、労働生産性の向上の促進がある。」それにもとづく発展の基本的方向は、「賃金の上昇と労働条件の改善、社会的消費ファンドよりの支出の増大、税金の特典の拡大、小売価格政策、国債の期限前の消却、消費構造の向上と改善、住宅建設の拡大、住民の社会的・文化的・日常生活上のサービスの改善」であった。（*Политическая экономия*, 1975, с. 67）なお注意すべきは、単なる欲求の満足、富の完全な充足だけではなく、「各個人の完全な自由な発達」（マルクス）、「社会の全員の自由な全面的な発達」（レーニン）が目標とされていたことである。（*Политическая экономия*, 1981, с. 215～217）

(7) ソ連における失業の完全な消滅は、1930年末で、世界で初めての現象である。失業者は1928年4月1日157.6万人、同年10月1日136.5万人、1929年4月1日174.1万人、1930年4月1日108.1万人、1930年10月1日24万人であった。（*Народное хозяйство СССР за 60 лет*, 1977, с. 462）

(8) DDRの消滅後の旧東ドイツにおける女子労働者の失業率は56～65%である。1991年4月56.1%、8月59.3%、12月61.2%、1992年4月62.9%、8月64.4%、10月64.9%で、その率は高い。（*Neues Deutschland*, 20. November, 1992）

海 道 進

第14表 各国別国民総生産の変化 (1980=100)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990
ソ 連	120	124	127	134	138	135
ベ ル ギ ー	104	105	107	112	117	121
イ ギ リ ス	109	113	118	123	125	126
ハ ン ガ リ ー	109	111	115	115	115	107
ギ リ シ ャ	107	108	108	112	116	117
デ ン マ ー ク	113	116	116	115	117	118
イ タ リ ー	108	111	114	119	123	126
中 国	162	175	195	216	224	234
ポ ー ラ ン ド	99	103	105	110	110	97
ア メ リ カ	114	117	121	126	130	131
フ ラ ン ス	108	110	113	117	122	125
ド イ ツ	106	109	110	114	119	124
日 本	121	124	129	137	144	152

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 668.

第15表 各国別工業生産の動態 (1980=1)

	総 量				住民1人当り			
	1985	1988	1989	1990	1985	1988	1989	1990
ソ 連	1.2	1.3	1.4	1.3	1.1	1.2	1.3	1.2
プ ル ガ リ ア	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2
イ ギ リ ス	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2
ハ ン ガ リ ー	1.1	1.2	1.1	1.0	1.1	1.2	1.2	1.1
イ タ リ ー	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.1	1.1	1.1
カ ナ ダ	1.2	1.3	1.3	1.2	1.1	1.2	1.2	1.1
中 国	1.8	2.8	3.0	3.2	1.7	2.5	2.7	2.8
キ ュ ー バ	1.4	1.5	1.4	……	1.4	1.4	1.3	……
モ ン ゴ ー ル	1.6	1.8	1.9	1.8	1.4	1.5	1.5	1.4
ポ ー ラ ン ド	1.0	1.2	1.1	0.9	1.0	1.1	1.1	0.8
ル ー マ ニ ア	1.2	1.4	1.4	……	1.2	1.4	1.3	……
ア メ リ カ	1.1	1.3	1.3	1.3	1.1	1.2	1.2	1.2
フ ラ ン ス	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.1	1.1
ド イ ツ	1.0	1.1	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2
チェコスロバキア	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.2
ユーゴスラビア	1.1	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0
日 本	1.2	1.3	1.4	1.5	1.1	1.3	1.3	1.4

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 674.

ここでも、中国の工業生産の発展テンポはきわめて高い水準にある。日本の水準をはるかに上廻る。かつてのソ連のように、社会主義経済体制、計画経済の資本主義の私的に自由な、無計画的な統一性のない生産に対する経済的優位性が示された。

なお農業生産についてみると、第16表のごとくである。

第16表 各国別農業総生産量(1980=1)

	総 量				住民1人当り			
	1985	1988	1989	1990	1985	1988	1989	1990
ソ 連	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1
ブ ル ガ リ ア	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	1.0	1.0	0.9
イ ギ リ ス	1.1	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0
ハ ン ガ リ ー	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.1	1.1	1.0
イ タ リ ー	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9	1.0	0.9
カ ナ ダ	1.1	1.0	1.1	1.2	1.1	1.0	1.1	1.1
中 国	1.5	1.7	1.7	1.9	1.4	1.5	1.5	1.6
キ ュ ー バ	1.1	1.2	1.2	……	1.0	1.1	1.1	……
モ ン ゴ ー ル	1.4	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2
ポ ー ラ ン ド	1.1	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1
ル ー マ ニ ア	1.2	1.1	1.1	1.1	1.2	1.1	1.0	1.0
ア メ リ カ	1.1	1.0	1.1	1.1	1.1	0.9	1.0	1.0
フ ラ ン ス	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
ド イ ツ	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.2	1.1
チェコスロバキア	1.1	1.1	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
ユーゴスラビア	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9
日 本	1.1	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 675.

ソ連は農業生産においても、1990年の1980年に対する倍率は、イギリス、イタリー、フランス、ドイツを抜いており、またそのテンポでは、アメリカ、日本よりも早い。住民一人当りの量においても、ソ連はイギリス、イタリー、アメリカ、フランス、日本よりも高い発展テンポを示している。

ここでも、中国の発展テンポはずば抜けて高い水準にある。総量で1.9倍、1人当りでは1.6倍であり、日本の停滞とはかけはなれて発展している。それは、工業生産の場合と同様に、社会主義経済体制の優位性を表現している。21世紀は中国の時代になるであろうといわれるのも、工業生産力、農業生産力の急速な発展による。もちろんそれが可能であるのは、階級対立と階級搾取を止揚した社会主義的生産諸関係にもとづいていることはいうまでもないところである。

## 5. 主要生産指標の発展テンポ

### (1) 1985～1990年の対前年比発展テンポ

1985～1990年の対前年比発展テンポにおいて、1989年に対する1990年の指標は、国民総生産をはじめ多くの指標が低下傾向を示している。名目的な生産額の増大にもかかわらず、実質的には対前年比指数で低下している。それは物価上昇にもよる。そのさい代表的商品について国際的に通用する価格指標で計算される。その計算には、国民総生産、社会総生産、生産国民所得、利用国民所得、社会的労働生産性、住民消費の物質的富とサービス、小売商品取引高など

第17表 主要生産指標の対前年比テンポ (%)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1 国民総生産	102.3	103.3	102.9	105.5	103.0	97.7
2 社会総生産	102.4	103.3	102.6	103.5	101.9	98.0
3 生産国民所得	101.6	102.3	101.6	104.4	102.5	96.0
4 利用国民所得	102.1	101.6	100.7	104.6	103.4	98.2
5 生産的基本ファンド (国民経済全部門)	105.6	105.2	104.8	104.5	105.1	104.1
6 工業生産	103.4	104.4	103.8	103.9	101.7	98.8
7 生産手段生産 (第Ⅰ部門)	103.5	105.0	103.7	103.4	100.6	96.8
8 消費資料生産 (第Ⅱ部門)	103.0	102.6	104.1	105.4	104.9	104.4
9 国民消費用品生産 (除アルコール)	104.7	104.4	105.5	105.1	105.9	106.0
10 農業生産	100.2	105.3	99.4	101.7	101.3	97.1
11 基本投資	103.0	108.4	105.6	106.2	104.7	100.6
12 稼動基本ファンド	101.4	105.9	106.8	98.6	102.5	98.1
13 社会的労働生産性	101.3	102.1	101.5	104.8	102.3	97.0

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 7.

の指標が含まれている。

1989～1990年にかけて国民総生産，社会総生産，生産国民所得，利用国民所得，工業生産，生産手段生産，農業生産，稼動基本ファンド，社会的労働生産性が軒なみ低下している中において，消費資料生産（第Ⅱ部門）が突出して上昇しているのは，特徴的現象である。とくに国民消費用品生産は，対前年比で6%の増大である。ペレストロイカの主要な結果として注目値する。またその内訳は，第18表のごとくであるが，非食料品の上昇率がきわめて大きい。38%の増である。また現在の軍需生産より民需生産への転換（конверсия）のもとで流通部門における企業による国民消費用品の生産高の増大率は，1990年に比較小売価格で27%であった。<sup>(9)</sup>

第18表 国民消費用品の生産（比較小売価格，10億ルーブル）

	1985	1988	1989	1990	1990/1985
国民消費用品	374.2	405.1	435.6	462.3	106
内)食料品	126.2	142.2	146.7	148.0	117
アルコール飲料	60.7	42.6	51.6	55.5	91
非食料品	187.3	220.3	237.3	258.8	138
その内) 軽工業品	86.2	95.4	99.9	102.2	119

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 418 より作成。

(9) Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 418.

ペレストロイカの結果

(2) 5カ年ごとの年平均増大テンポ

基本的生産指標の5カ年ごとの年平均増大テンポにおいては、国民総生産、社会総生産、生産国民所得、工業生産、基本的生産ファンドなどの1986～1990年の年平均発展テンポは、1981～1985年と比較して低下している。これに対し、消費資料生産とくに国民消費商品生産は上昇を示している。その年平均増大テンポは、4.3%と5.3%である。

第19表 基本的生産指標の年平均発展テンポ (%)

	1976～1980	1981～1985	1986～1990
1 国民総生産	4.8	3.7	2.4
2 社会総生産	4.2	3.3	1.8
3 生産国民所得	4.3	3.2	1.3
4 利用国民所得	3.8	2.9	1.7
5 基本的生産ファンド	7.4	6.4	4.8
6 工業生産	4.4	3.6	2.5
7 生産手段生産	4.7	3.6	1.9
8 消費資料生産	3.8	3.7	4.3
9 国民消費商品生産(除アルコール飲料)	4.4	3.7	5.3
10 農業生産 <sup>(1)</sup>	1.7	1.0	1.9
11 農産物	1.8	0.6	1.0
12 畜産物	1.5	1.5	2.6
13 基本投資	3.7	3.7	6.1
14 社会的労働生産性	3.3	2.7	1.5

備考：Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 8.

注：(1) 生産の年平均量より算出。

第19表からも判明するように、1986～1990年のペレストロイカ時代の5カ年平均の年発展テンポは、国民総生産、社会総生産、生産国民所得、利用国民所得、基本的生産ファンド、工業生産、生産手段生産、社会的労働生産性において、1970年代後半と1980年代前半のブレジネフ時代の停滞期の水準以下となる。

国民総生産、社会総生産、生産国民所得、利用国民所得、社会的労働生産性においては、1976～1980年水準の2分の1以下の水準にまで低下している。危機的状況といわれた所以である。

1970年代後半と1980年代前半の停滞期よりも高い発展テンポを示しているのは、消費資料生産、国民消費商品生産、畜産物、基本投資である。とくに前二者(4.3%と5.3%)は、他の指標よりも高い数字となっている。

以上、第1、第6、第17、第18、第19表より明らかなように、1985年から1990年にいたるペレストロイカの時代において特徴的現象は、消費資料生産と国民消費商品生産の増大テンポが高いことである。以下、その内容についてより詳細に考察することにしよう。

## II 1985～1990年の消費資料の生産

第1, 第6表からも明らかなように, 1985～1990年の生産の増大率の中で, 工業生産は13%の増大であるのに対し, 国民消費商品生産の増大率は23.5%, その中でも非食料品は38%で, とくに顕著である。食料品は17%で, アルコール飲料は-8.6%であった。それは反アルコールキャンペーンによる<sup>(10)</sup>。

一人当りのアルコール消費量は第20表のごとく急激に低下している。1980年の年間8.7lより1988年には3.7lに低下。半分以上となる。但し1990年には4.6lに増大しているが, 1980年のほぼ2分の1の水準である。アルコール飲料の低下は, 平均寿命の延長とも関係している。一時70才以下になったが, 最近70才に回復しているからである。もちろん回復にはアルコール<sup>(11)</sup>

第20表 アルコール飲料の消費(住民1人当り絶対量, l)

	1980	1985	1988 <sup>(1)</sup>	1989
ソ 連	8.7	7.2	3.7	4.6 <sup>(2)</sup>
オーストラリア	9.7	9.6	9.2	
オーストリー	11.0	11.2	11.4	
ベルギー	11.4	10.9	10.8	
ブルガリア	9.2	9.2	9.3	
イギリス	8.5	8.4	8.6	
ハンガリー	11.7	11.5	10.3	10.7
デンマーク	9.2	10.2	10.1	
イタリア	13.9	12.5	11.7	
カナダ	8.9	7.9	7.8 <sup>(3)</sup>	
オランダ	8.6	8.3	8.0	
ノールウェー	4.9	4.4	4.6	4.5
ポーランド	8.9	7.2	7.1	7.1
アメリカ	8.6	8.3	8.0	
トルコ	0.7	1.0	1.0	
フィンランド	6.4	6.6	7.7	8.1
フランス	15.8	14.0	13.3	
ドイツ	10.0	9.3	9.1	8.9
チェコスロバキヤ	9.4	9.3	8.8	
スウェーデン	6.3	5.8	6.0	6.0
ユーゴスラビア	8.8	6.7	7.4	

備考: Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 672.

注: (1) ソ連, オーストリー, ハンガリー, デンマーク, ノールウェー, ポーランド, フィンランド, ドイツ, チェコスロバキヤ, スウェーデン, ユーゴスラビアを除く, 他の国は1987年。

(2) 1990年, (3) 1986年

(10) 1985年3月11日ソ連共産党中央委員会総会でゴルバチョフが書記長に選出されて1カ月もたない4月5日には, 政治局において暴飲と酒のみに対する対策が討議されており, その結果は, 翌5月16日最高ソビエト幹部会において「暴飲との闘争の強化についての幹部会令」となり, 翌17日には, 党中央委員会より「暴飲とアルコール依存症, 酒類密造の根絶の措置について」が公表された。

ペレストロイカの結果

飲料の減少のみではなかったであろう。なおアルコール飲料の生産も、ウォッカとブドウ酒については、1987年には1985年の水準のほぼ2分の1にまで低下している。ビールは20%の減。とくに果実酒が激減している。なおコニャックは30%の増である。(第21表)

第21表 アルコール飲料の生産 (100万 dl)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990
ウォッカとリキュール製品	238	147	123	142	182	212
ブドウ酒	265	141	147	179	193	162
果実酒	70.0	15.1	0.8	—	—	0.0
コニャック (1000 dl)	6986	6685	9540	11811	13596	11999
シャンパン	19.9	15.6	18.0	20.6	20.4	19.9
ビール	657	489	507	558	602	625

備考：Товары народного потребления, 1991, с. 14.

1990年の工業生産は、1985年水準の113%、その内生産手段生産部門は110%、消費資料生産部門は123%で、国民消費用品の生産は123.5%であった。この増大率は、1980～1985年の比率（——生産手段生産部門119%、消費資料生産部門120%、国民消費用品生産部門112%）にくらべると、とび抜けて大きい。それはペレストロイカの特徴的現象であった。

さらにまた、1990年の1989年に対する比率が、工業全体で約99%、生産手段生産部門で約97%、それぞれ前年比減少しているにもかかわらず、消費資料生産では4.4%の増、とくに国民消費用品の生産は6.1%増であった（第17表では6.0%）。ペレストロイカの特徴的一結果が示されている。(第22表)

第22表 工業生産物の生産指標

	1980年に対する 1985年	1990年 (%)	
		対1985	対1989
工業生産	119	113	98.8
内) 生産手段生産	119	110	96.8
消費資料生産	120	123	104.4
国民消費用品の生産	112	123.5	106.1

備考：Товары народного потребления, 1991, с. 5.

(11) ソ連の1971～1972年の平均寿命は70年（男64, 女74）。[当時（1974年）日本は73年（男71, 女76）]（Народное хозяйство СССР за 60 лет, 1977, с. 137）。なお1979～1980年は67.7年（男62.2, 女72.5）で何れも1971～1972年水準以下。1982～1983年でも68.2年（男62.8, 女73.0）で1971～1972年水準以下である。1985年も同じで68.4年（男63.3, 女72.9）である。1986年で69.6年（男65.0, 女73.6）、漸く1971～2年水準に回復する。

1986年はウォッカとリキュールの生産量は40%の激減、ブドウ酒も約50%の減、ビール25%減で、劇的な減少である。1987年は最長で69.8年（男65.1, 女73.8）であるが、1990年には、69.3年（男64.3年, 女73.9）に低下。1990年のウォッカとリキュールの生産は1987年の最低生産水準の1.7倍に増大している。(第20表)（Народное хозяйство СССР в 1990 г., 1991, с. 94）

海 道 進

ここで国民消費商品には、(1)非食料品、(2)食料品、(3)アルコール飲料が含まれている。(1)の非食料品には、衣類、靴類、文化用品、耐久消費財、テレビ、自動車、時計、電気冷蔵庫、電気洗濯機、オートバイ、自転車、ミシンなどが入る。(2)の食料品には、肉類、魚類、牛乳・乳製品、パン類、ジャガイモ、野菜、果物類が含まれる。(3)のアルコール飲料は、いうまでもなく、ウォッカ、ブドウ酒、シャンパン、コニャック、ビールなどである。

ペレストロイカの主要課題の一つであった生産発展テンポの増大の促進が、消費資料、国民消費商品の生産の分野において1985～1990年には達成されていた。とくに非食料品部門において。その中でもとくに軽工業品を除いた非食料品の生産は、1985年に対して1990年は155%となっている。(第23表) 55%の増大は他とくらべてとくに大きい。その中でも、カラーテレビ(178)、ビデオ(67倍)、2・3層冷蔵・冷凍庫(3倍)、電気掃除機(2.7倍)、庭園用小屋(4.5倍)の増大率は顕著である。生活の近代化、生活水準向上のテンポは早い。

カラーテレビは、1985年の402万台より1990年には717.5万台と増大、2・3層の冷蔵・冷凍庫は58.5万台より173万台に、ビデオは、約7,000台より45万台に増大、電気掃除機は406.5万個より577万個へ、170万台の増大、庭園用小屋は3.4万戸より15.5万戸へ12万戸以上の増大となっている。(第24、25表)

これらの増大にもかかわらず、1991年以降になると、ロシア連邦共和国においては、消費資料生産と国民消費商品生産は、工業生産も同様であるが、政治的混乱状態、通貨政策の失敗、市場経済原理の急激な導入により急速に低下していくことになる。

第23表 国民消費商品生産の指標

	対前年比 (%)					1985年に対する
	1986	1987	1988	1989	1990	1990年
国民消費商品	97.2	104.8	106.2	107.5	106.1	123.5
内) 食料品	105.1	105.8	101.3	103.2	100.9	117.3
アルコール飲料	61	99.2	116.9	121.2	107.7	92
非食料品	103.9	105.2	107.7	107.7	109.1	138
内) 軽工業商品	101.1	102.8	106.7	104.7	102.3	118.6
軽工業商品を除いた非食料品	106.3	107.1	108.5	110.0	114.0	155
アルコール飲料を除いた国民消費商品	104.4	105.5	105.1	105.9	106.0	130

備考：Товары народного потребления, 1991, с. 6.



ペレストロイカの結果

第24表 非食料品の生産

		1985	1986	1987	1988	1989	1990
ラジオ	1,000個	8849	8924	8143	8025	8561	9168
テレビ	1,000台	9371	9436	9081	9637	9938	10540
内) カラーテレビ		4024	4366	4648	5700	6341	7175
テープレコーダー	1,000個	4665	4765	5023	5548	5713	6272
内) カセット		3755	3928	4464	5066	5254	5791
ビデオ	1,000個	6.8	13.0	45.0	72.9	125	454
冷蔵・冷凍庫	1,000台	5860	5948	5984	6231	6465	6499
内) 2～3層		585	947	1267	1296	1433	1732
洗濯機	1,000個	5068	5383	5779	6104	6698	7818
内) 自動, 半自動		1238	1318	1412	1510	1743	1792
ミシン	1,000個	1504	1530	1483	1550	1554	1754
手編み機	1,000個	138	167	187	204	192	267
電気アイロン	100万個	15.4	15.9	15.0	15.4	15.5	16.0
電気掃除機	1,000個	4065	4269	4447	4795	5087	5774
電気ミキサー	1,000個	830	1035	1268	1331	1869	2268
電気肉挽き機	1,000個	296	356	459	441	510	701
オートバイとスクーター	1,000台	1148	1130	1047	1068	1076	1093
自転車	1,000台	5362	5491	5550	5647	5604	5865
時計	100万個	67.2	69.9	70.6	73.5	74.7	77.4
写真機	1,000個	2085	2172	2415	2722	2856	3079
家具 <sup>(1)</sup>	10億ルーブリ	8.0	8.3	8.7	9.4	10.0	10.8
庭園用小屋	1,000個	34.4	68.6	95.1	115	146	155
陶器食器	100万個	1166	1144	1128	1123	1110	1065
安全カミソリ	100万個	1644	1654	1673	1722	1685	1523
化粧石ケン	1,000 t	253	258	264	285	306	309
営業用石ケン	1,000 t	633	626	628	659	731	713
巻タバコ, シガレット	10億個	381	384	378	358	343	313

備考：Товары народного потребления, 1991, с. 9.

注：(1) それぞれの年の小売価格

## III 1991～1993年の生産指標

1991年は工業生産対前年比<sup>(12)</sup> -8%、消費資料 -5%、国民消費用品 -0.8%で、まだ減少はそれほど大きくはなかつた。しかし1992年に入ると工業生産は<sup>(13)</sup> -18%、また<sup>(14)</sup> -14.7% (1992年の第三四半期には<sup>(14)</sup> -26.7%)の数字もあり、いずれにしても15～18%の減。国民消費用品生産は<sup>(15)</sup> -15%、食料品 -18%、アルコール飲料 -6%、非食料品 -14%である。なお食品工業は<sup>(16)</sup> -22%で、最大の低下率を示す。

第25表 非食料品生産の指標 (対前年比, %)

	対 数					1985年に対する 1990
	1986	1987	1988	1989	1990	
ラ ジ オ	100.8	91	99	107	107	104
テ レ ビ	100.7	96	106	103	106	112
内) カ ラ ー	109	106	123	111	113	178
テ ー プ レ コ ー ダ ー	102	105	110	103	110	134
内) カ セ ッ ト	105	114	113	104	110	154
ビ デ オ	191	346	162	171	364	67倍
冷 蔵 ・ 冷 凍 庫	101	100.6	104	104	100.5	111
内) 2～3層	162	134	102	111	121	296
洗 濯 機	106	107	106	110	117	154
内) 自 動, 半 自 動	106	107	107	115	103	145
ミ シ ン	102	97	105	100.2	113	117
手 編 機	121	112	109	94	139	194
電 気 ア イ ロ ン	105	104	108	106	114	142
電 気 掃 除 機	125	122	105	140	121	273
電 気 肉 ひ き 機	103	95	103	100.4	103	103
オ ー ト バ イ と ス ク ー タ ー	98	93	102	100.7	102	95
自 転 車	102	101	102	99.2	105	109
時 計	104	100.9	104	102	104	115
写 真 機	104	111	113	105	108	148
家 具	105	105	108	107	108	136
庭 園 用 小 屋	199	139	121	127	106	4.5倍
陶 器 食 器	98	99	99.6	99	96	91
安 全 カ ミ ソ リ	100.6	101	103	98	90	93
化 粧 石 ケ ン	100.9	103	108	107	101	121
営 業 用 石 ケ ン	99	100.2	105	111	97	113
巻 タ バ コ, シ ガ レ ッ ト	100.7	99	95	96	91	82

備考：Товары народного потребления, 1991, с. 10.

(12) Народное хозяйство Российской Федерации. 1992, 1992, с. 14.

(13) Экономика и жизнь, No. 4, 1993, с. 13.

(14) Обзор экономики России 1993 I. с. 52.

(15) «Вестник статистики», No. 3, 1993, с. 27.

(16) «Экономист», No. 12, 1992, с. 5.

## ペレストロイカの結果

1993年には、さらに生産は低下する。対前年比、工業生産で1～11月には-16.3%、推定で年間-15.5～16%である。<sup>(17)</sup>なお1～8月では工業生産-16.8%、国民消費商品-11%、その内食料品-10%、非食料品-11.4%、ただしアルコール飲料は2%の増大となっている。<sup>(18)</sup>

ロシア連邦においては、1991年の社会総生産は-9.8%で、1986～1990年の年平均発展テンポの1.9%とかけはなれて悪化している。因に1981～1985年のペレストロイカ以前のそれは3.1%であった。ペレストロイカは、事態を改善したのではなく、改悪したのである。それは、社会主義時代以下となる。

生産国民所得についても同様で、1991年は-11%、ペレストロイカの始まった1986～1990年の年平均1.1%、それ以前の1981～1985年の3.1%とくらべて、格段に悪化している。農業生産でも、1991年は-4.5%、1986～1990年は2.2%、1980年代前半は1.0%、とくに畜産は1991年-7.3%で、1986～1990年の2.7%にくらべて大きな減退をなしている。稼動基本ファンドも-24.6%で、それ以前の4.2%にくらべて比較にならないほど低下している。<sup>(20)</sup>

以上、これらの結果からすると、ソ連のペレストロイカは、最初の目標であった社会主義の強化、社会経済発展の促進とは、まったく逆の結果をもたらしている。<sup>(21)</sup>ラディカルな経済管理の改革、所有関係の変革、民営化、価格の自由化、市場経済原理の導入は、国民経済の生産、分配に否定的な結果を与えた。社会主義時代よりも生産力は低下している。そのことは、逆に社会主義的計画経済体制の優位性を実証していることにもなる。

かつての社会主義時代に消滅させることができた失業問題を加えるならば、それはさらに明瞭となる。<sup>(22)</sup>そのみならずインフレーション、急速な物価騰貴、国民生活水準の低下、貧困層の増大などを考慮に入れるならば、市場経済原理の導入が、社会主義時代以下の経済をもたらしていることは特徴的である。エリツィン政権が支持されなくなる所以である。また市場経済原理も support されなくなる。

市場経済が「効率的」であるという500日計画案（シャターリン案）<sup>(23)</sup>は、現実において破綻していることにもなる。この negative な結果をもたらした原因は少なくともつぎの点にある。すなわち、強力な統一的国家権力の崩壊、ソ連邦の解体、政治の不安定化、民族問題、民族間の対立の激化、内戦、上部構造の弱体化のみならず、下部構造の混乱、計画経済体制の統一

(17) «Вестник статистики», No. 12, 1993, с. 3.

(18) «Вестник статистики», No. 8, 1993, с. 4.

(19) Народное хозяйство Российской Федерации. 1992, 1992, с. 17.

(20) Там же.

(21) О задачах партии по коренной перестройке управления экономикой, Справочник партийного работника, Выпуск 28, 1988, с. 32～33.

(22) 登録失業者数は1992年1月1日の61,876人より同年7月1日の202,879人に増大している。(Народное хозяйство Российской Федерации. 1992, 1992, с. 130).

(23) 1990年10月29日の«Комсомольская правда».「500日計画（シャターリン案）の概要」大崎平八郎訳、「日ソ経済調査資料」No. 704, 1991年1月, 3ページ。

性の破壊、私的所有にもとづく無計画的生産、価格の自由化にともなう物価の上昇、通貨増発、インフレーションの激化（1992年前半で10倍の物価上昇<sup>(24)</sup>）、流通における投機現象の一般化など。さらに治安の悪化。それら各種の要因は相互に規定しあい、相互依存の関係のもとで事態はより複雑化され、その根本的解決をより困難なものにしている。

## 結

ペレストロイカの結果は、広範な問題を含んでいる。それは単に政治と経済の問題のみならず、社会全般にわたる問題を含む。すなわち、科学、技術、芸術、文化、文学、宗教、倫理、道徳、社会制度、社会組織、社会秩序、教育、保健、医療など。社会構造全体の問題にまで及ぶ。

ここでは、経済の問題に限定され、さらにその中でもとくに生産の分野に視点が集中されたのであるが、それにしてもまだその分野においても残された問題は多い。工業生産の各部門別の分析、農業生産、社会的労働生産性、基本的生産ファンド、基本投資など、その詳細な具体的考察は今後の課題である。

さらにそのみならず、インフレーション、失業、貧困化、外国貿易、ルーブルの価値、財政、賃金、労働力、企業経営、利潤などの個別的問題はきわめて多い。多種多様の究明されるべき問題がまだ残されていることをとくに指摘しておく。

---

(24) ロシアでは、1990年12月に対する1991年12月の消費者物価は2.6倍（内、非食料品は3.1倍）に上昇、1991年12月に対する1992年3月には6.2倍、6月には10倍（内、サービス料金は12.4倍）となる。（Народное хозяйство Российской Федерации. 1992, 1992, с. 205.）なお年間で28倍（«Экономика и жизнь» No. 4, январь 1993 г., с. 13），1993年前半で3.44倍である。（«Экономика и жизнь» No. 31, июль 1993 г., с. 21）